

# 他力

「住職便り」



第25号（令和三年三月）

専徳寺住職 弘中満雄

## 【五年クイズ】

今年（今年）は丑年（うしとし）です。そこでいきなりですが、「クイズ・牛の出でくることわざ」。

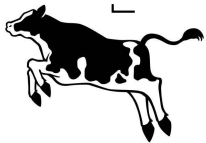
次の意味のことわざは何でしょう？

- ①牛のよだれが細く長く尾を引くように、商売は氣長に辛抱してやること。」

答えは「商（あきな）いは牛のよだれ」

ご存じだったでしょうか？

では、一気に三問！



- ②曲がった牛の角をまっすぐにするために叩（たた）いたり引っぱったりすると、牛は弱って死んでしまう事から、わずかな欠点を直そうとして、かえって全体をだめにしてしまう事。

- ③同類や似た者同士は、自然と集まりやすいことのとえ。

- ④暗い所に黒い牛がいると何が何やらはつきりしないところから、物の区別がつかないたとえ。また、言動等がにぶくて、はきはきしないたとえ。

答えは次の通りです。

- ②角（つの）を矯（た）めて（直（なお）して）牛を殺す  
③牛は牛連れ馬は馬連れ  
④暗（くら）がりから牛

です。では最後にもう一つ。

## ⑤牛に引かれて善光寺参り

これは、どういう意味でしょう？

## 【牛にひかれて】

昔、長野県の善光寺の近所に、一人のお婆さんが住んでいました。

「お浄土なんて、死んだ後の話さ」

仏縁（ぶつえん）のなかつたお婆さんでしたが、ある日、干（ほ）していた自分の洗濯物を牛が角にかけて逃げたそうです。追いかけるうちに善光寺へ。見ると牛のよだれで、

うしとのみおもひはならそこのみらになれをみらびくおのがこころを

（ただの牛の仕業（しわざ）と思ってくれるな。あなたを、この仏の道へ導いている私「弥陀（みだ）」の心に気づいておくれ）

【住職訳】

と書かれた文字。驚いたお婆さん。それがかきつけかけでお聴聞（ちやうもん）し、仏法を喜ぶ人にとや他人の誘（さ）いによつて、よいほうに導かれること」を、「⑤牛に引かれて善光寺参り」というようになったそうです。

## 【専徳寺参り】

善光寺だけでなく、ご先祖を「牛」といただき、専徳寺へもお参りください。

仏の道は難しくありません。「南無阿弥陀仏（なむあみだぶつ）の名号（なごう）|| 眞実（しんじつ）の信心（しんしん）」一つです。

それ以外にはありません。

世間の場においては「仏」も「浄土」もよくわかりません。暗がりから牛です。だからこそ、お寺という特別の場所があります。先祖が仏法聴聞（ぶつぽうちやうもん）のために大切に伝え残してきました。

牛は牛連れ、門徒（もんた）は門徒連れ。今年こそ一緒に聴聞（ちやうもん）しましょう！（おわり）



09010-4307710